

日興グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート 2005-04

<愛称 Jプラス 2005-04>

単位型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）

交付運用報告書

第29期(決算日2019年7月22日)

作成対象期間(2019年1月23日～2019年7月22日)

第29期末(2019年7月22日)	
基準価額	8,714円
純資産総額	261百万円
第29期	
騰落率	△ 1.1%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「日興グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート 2005-04」は、2019年7月22日に第29期の決算を行ないました。

当ファンドは、国内外の公社債ならびに有価証券指数等先物取引に係る権利および外国市場証券先物取引に係る権利に実質的に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なっておりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

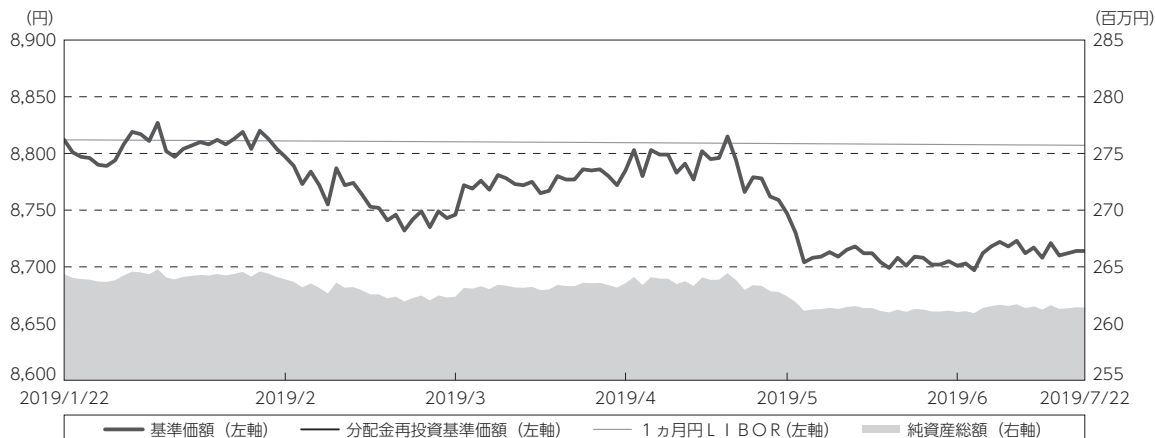
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2019年1月23日～2019年7月22日)



期首：8,812円

期末：8,714円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：△ 1.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

(注) 分配金再投資基準価額および1ヵ月円LIBORは、期首(2019年1月22日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 1ヵ月円LIBORは当ファンドのベンチマークです。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、国内外の公社債ならびに有価証券指数等先物取引に係る権利および外国市場証券先物取引に係る権利に実質的に投資を行ない、信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・ドイツ国債をロングポジションとしたこと。
- ・スウェーデンクローナをショートポジションとしたこと。

<値下がり要因>

- ・米国国債をショートポジションとしたこと。
- ・カナダ国債をショートポジションとしたこと。

1口当たりの費用明細

(2019年1月23日～2019年7月22日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	48	0.545	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(17)	(0.189)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(29)	(0.332)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.025)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	2	0.024	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数
(先 物 ・ オ プ シ ョ ン)	(2)	(0.024)	売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) そ の 他 費 用	2	0.024	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(2)	(0.022)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	52	0.593	
期中の平均基準価額は、8,764円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

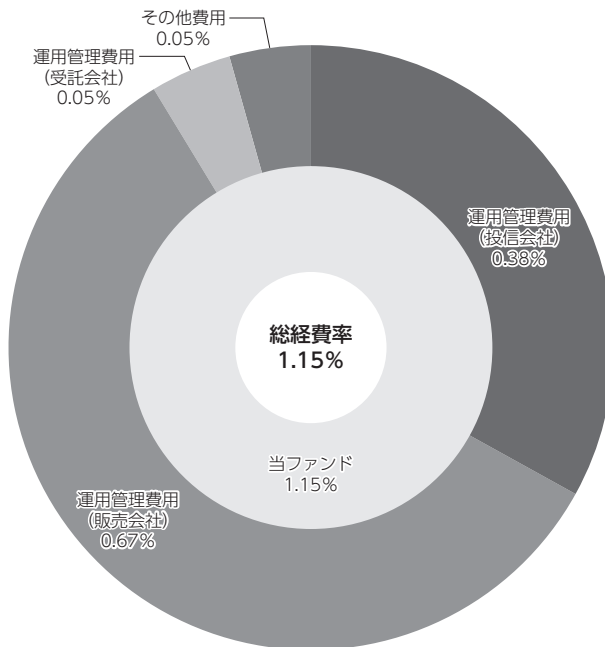
(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.15%です。



(注) 当ファンドの費用は1口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

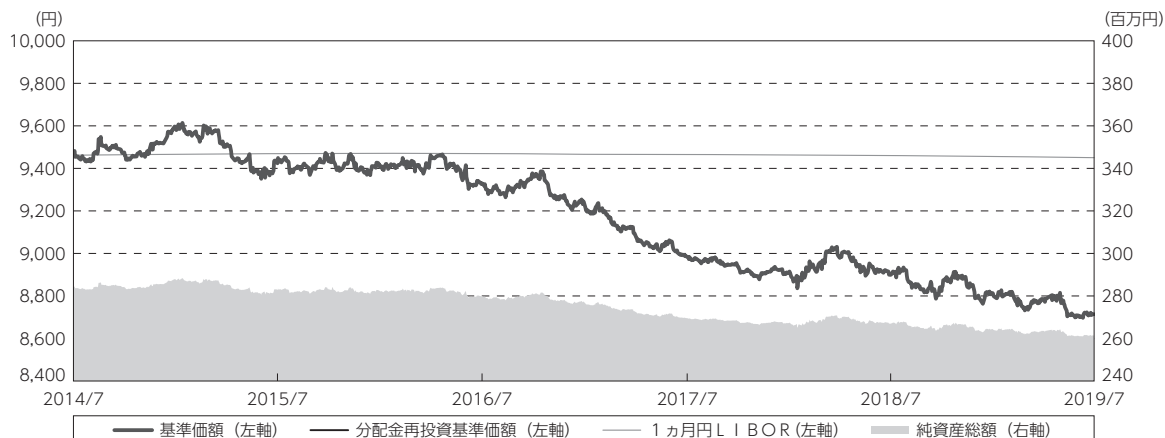
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2014年7月22日～2019年7月22日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

なお、当ファンドは単位型投信であり、実際には分配金は再投資されませんのでご注意ください。

(注) 分配金再投資基準価額および1ヵ月円LIBORは、2014年7月22日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2014年7月22日 決算日	2015年7月22日 決算日	2016年7月22日 決算日	2017年7月24日 決算日	2018年7月23日 決算日	2019年7月22日 決算日
基準価額 (円)	9,462	9,424	9,330	8,985	8,899	8,714
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 0.4	△ 1.0	△ 3.7	△ 1.0	△ 2.1
1ヵ月円LIBOR騰落率 (%)	—	0.1	△ 0.0	△ 0.0	△ 0.0	△ 0.1
純資産総額 (百万円)	283	282	279	269	266	261

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 1ヵ月円LIBORは当ファンドのベンチマークです。

投資環境

(2019年1月23日～2019年7月22日)

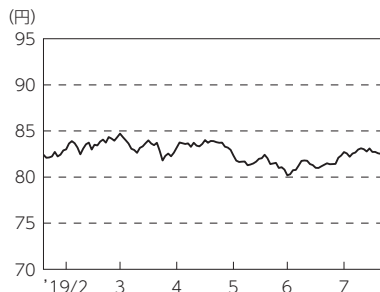
(為替市況)

期間中における投資先各国の通貨（対円）は、下記の推移となりました。

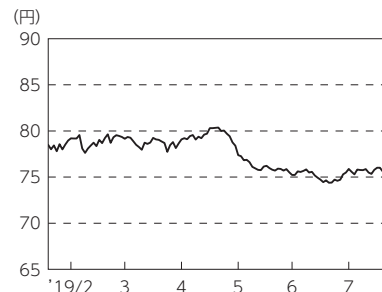
円／アメリカドルの推移



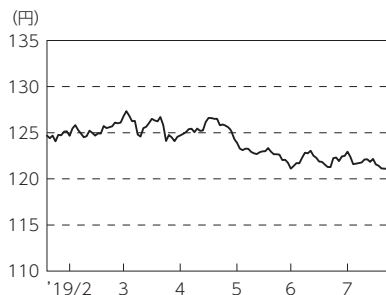
円／カナダドルの推移



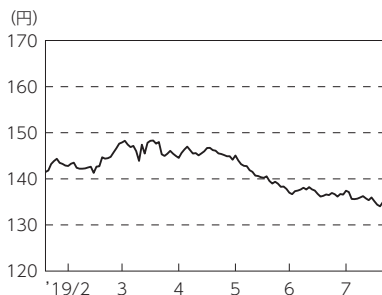
円／オーストラリアドルの推移



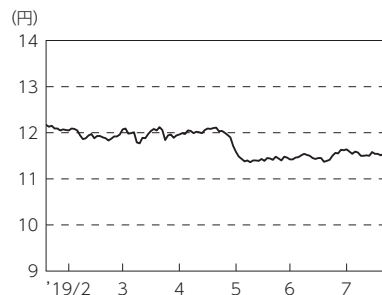
円／ユーロの推移



円／イギリスポンドの推移



円／スウェーデンクローナの推移



(債券市況)

投資先各国の10年国債利回りは、期間の初めと比べて総じて低下（債券価格は上昇）しました。

期間の初めから2019年3月下旬にかけては、米国による米中通商協議の期間延長の発表を受けた交渉進展への期待の高まりなどが、利回りの上昇（債券価格は下落）要因となったものの、軟調な米国や欧州の景況感指数の発表を受けて世界的な景気の減速が懸念されたことや、米国連邦準備制度理事会（FRB）および欧州中央銀行（ECB）が今後の政策金利について、2019年内は据え置くとの見通しを示したことなどを背景に、各国の10年国債利回りは総じて低下しました。4月上旬から期間末にかけては、米中の底堅い経済指標や市場予想以上に拡大した中国の新規中国人民元建て融資などから、米国や中国経済の先行きに対する懸念が後退したことや、米中間の貿易交渉進展への楽観的な見方が広がったことなどが利回りの上昇要因となったものの、その後、米国大統領が中国製品への関税の引き上げを表明し、中国がその対抗措置を発表するなど、米中間の貿易摩擦を巡って緊張が高まったことや、ECB総裁が必要に応じて追加金融緩和策を講じる可能性を示唆したこと、米国連邦公開市場委員会（FOMC）の声明などを受けて米国の早期利下げ観測が広がったことなどから、各国の10年国債利回りは総じて低下しました。

当ファンドのポートフォリオ

(2019年1月23日～2019年7月22日)

(当ファンド)

当ファンドは、「グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券を高位に組み入れて運用を行ないました。

(グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド)

原則として「日興GAAモデル」での算出結果に基づき、以下の通り、ポジションを調整しました。

債券のポジションは、金利ファクターやファンダメンタルズファクター、テクニカルファクターなどを勘案し、概ね、イギリス国債やドイツ国債などをロング、カナダ国債や米国国債、オーストラリア国債などをショートとしました。債券のネットエクスポージャー（ロングポジションとショートポジションの差）は、期間の初めから2019年6月上旬までは概ねショートとしましたが、6月中旬から期間末まではほぼ中立に変更しました。

通貨のポジションは、金利ファクターや、需給ファクター、ファンダメンタルズファクター、株式ファクターなどを勘案し、概ね、スウェーデンクローナやユーロなどをショート、オーストラリアドルなどをロングとしました。日本円はほぼニュートラルとしました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2019年1月23日～2019年7月22日)

期間中における基準価額は、1.1%の値下がりとなり、ベンチマークである「1ヵ月円LIBOR」の下落率0.1%を概ね1.1%下回りました。

ベンチマークとの差異における主な要因は以下の通りです。

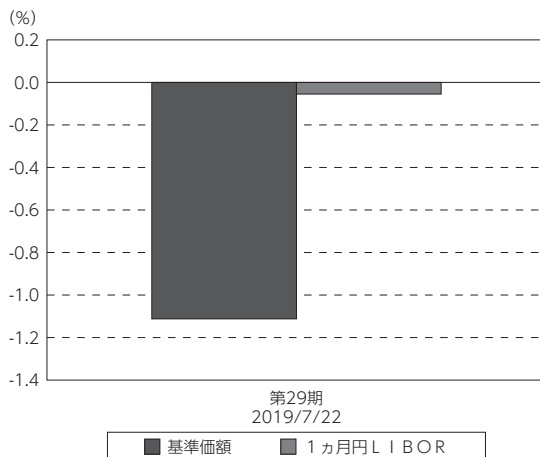
<プラス要因>

- ・ドイツ国債をロングポジションとしたこと。
- ・スウェーデンクローナをショートポジションとしたこと。

<マイナス要因>

- ・米国国債をショートポジションとしたこと。
- ・カナダ国債をショートポジションとしたこと。

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



(注) 基準価額の騰落率は分配金（税込み）込みです。

(注) 1ヵ月円LIBORは当ファンドのベンチマークです。

分配金

(2019年1月23日～2019年7月22日)

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりいたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配金

1口当たり分配金(税込み)	0円
---------------	----

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、ファンドの基本方針に則り、「グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券を原則として高位に組み入れて運用を行ないます。

(グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド)

引き続き、原則として「日興G A Aモデル」の算出結果を基にポートフォリオを構築しますが、必要に応じて定性判断を採り入れることにより、計量モデルでは捕捉できない市場変動などに対応し、より安定的なパフォーマンスをめざします。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

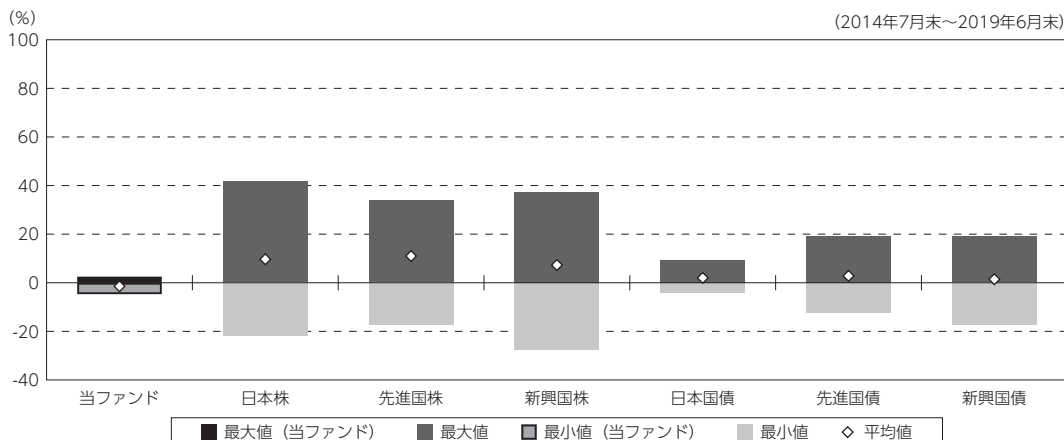
2019年1月23日から2019年7月22日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	単位型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	2005年4月28日から2020年4月22日までです。 (クローズド期間は、原則全期間です。)	
運用方針	主として「グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券に投資を行ない、信託財産の成長をめざします。	
主要投資対象	日興グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート 2005-04	「グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド	国内外の公社債ならびに有価証券指数等先物取引に係る権利および外国市場証券先物取引に係る権利を主要投資対象とします。
運用方法	「グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド」受益証券への投資を通じて、世界各国の債券および通貨への投資に加え、債券先物取引および外国為替予約取引等も行ないます。世界主要国の債券および通貨を主要投資対象としたロング・ショート戦略で運用を行ないます。自社開発の計量モデル（日興GAAモデル）による分析をもとに、ポートフォリオの最適化を図ります。計量モデルによる運用を基本としますが、必要に応じて定性判断を採り入れることにより、モデルでは捕捉できない市場変動などに対応し、パフォーマンスの安定化を図ります。	
分配方針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	2.5	41.9	34.1	37.2	9.3	19.3	19.3
最小値	△ 4.7	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	△ 1.4	9.7	11.0	7.3	2.0	2.8	1.4

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年7月から2019年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産権その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2019年7月22日現在)

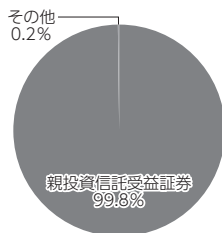
○組入上位ファンド

銘柄名	第29期末
グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド	99.8%
組入銘柄数	1銘柄

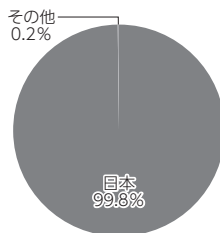
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

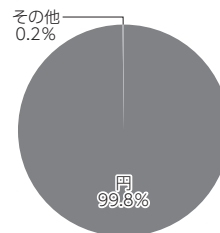
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

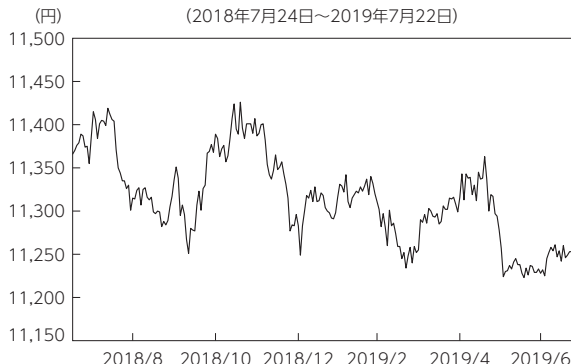
項目	第29期末
	2019年7月22日
純資産総額	261,410,038円
受益権総口数	30,000口
1口当たり基準価額	8,714円

(注) 期中における解約元本額は0円です。

組入上位ファンドの概要

グローバル・ボンド&カレンシー・ロング・ショート・マザーファンド

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2018年7月24日～2019年7月22日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (先物・オプション)	5 (5)	0.045 (0.045)
(b) その他費用 (保管費用)	5 (0)	0.044 (0.000)
(その他)	(5)	(0.043)
合計	10	0.089

期中の平均基準価額は、11,313円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

【組入上位10銘柄】

(2019年7月22日現在)

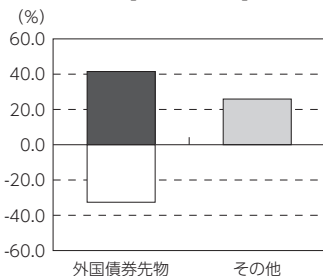
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	TNOTE10Y	債券先物(買建)	アメリカドル	アメリカ	24.6
2	CAN 10Y	債券先物(売建)	カナダドル	カナダ	22.4
3	GILT10Y	債券先物(買建)	イギリスポンド	イギリス	16.9
4	AUSTR10Y	債券先物(売建)	オーストラリアドル	オーストラリア	5.2
5	BUND10Y	債券先物(売建)	ユーロ	ドイツ	5.0
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
9	-	-	-	-	-
10	-	-	-	-	-
	組入銘柄数		5銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

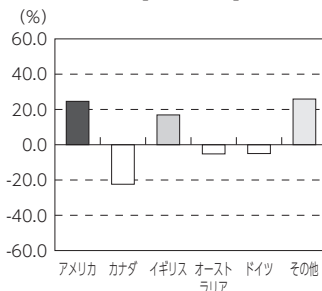
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

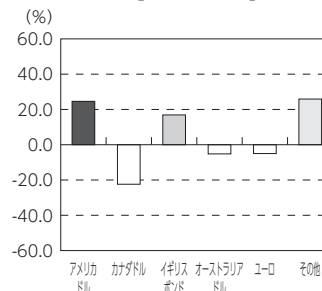
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。